広報 なりた 市民を大切にする市政

成田歴史玉手箱

●27回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

もっこを持つ幼稚園児（成田山仏教図書館所蔵「成田町報」第7号・昭和15年1月）

興亜道路

幼稚園児・学生・町民の勤労奉仕でできた道路

山の土を掘り出す成田中学校の生徒と職員（成田山仏教図書館所蔵「成田町報」第6号・昭和14年11月）

太平洋戦争が激化し人々の生活が困窮していた昭和10年代後半、山をスコップで削り、猫車を押し、もっこを担ぎ人力だけでつくられた道路がありました。成田中学校（現成田高校）から現在の国道51号東町入口を経由して京成成田駅前までの、後に「興亜道路」と呼ばれた道路です。

この路線は宮崎広成田町長時代に計画され、昭和７年から3年間で成田中学校前から東町入口までの改修工事が完成し、残りの東町から京成成田駅までは、県道として着工する予定でしたが戦時下のため中断されました。

しかし、当時は戦勝祈願や昭和13年の開基一千年祭の成功などで成田山への参拝客が激増、狭い参道を人力車やバスが行き交う危険な道路事情がありました。そこで宮崎町長の後を継いだ三橋金太郎町長は、混雑する参道の交通緩和と危険防止を目的に、中断されていた区間を昭和14年10月から町で整備することにし、これを「興亜道路」と名付けました。この名前の由来は、“八紘一宇（はっこういちう）”や“興亜作興（こうあさっこう）”という当時の国策を反映したスローガンから付けられたと考えられます。

工事は財政的な問題や男性の労働力不足から、各学校、国防・愛国婦人会などの団体、町民の勤労奉仕によって行われました。特に、現在の国道51号線部分は一面田んぼで、付近の山から土を掘り出し、もっこや猫車で土を運び、田んぼを埋めて道路を作る大変な作業でした。

昭和18年に完成した道路の両側には桜の苗木が植えられ、4月29日の開通式で三橋町長は、来賓や町民とともに成田中学校まで渡り初めを行い、「奉仕団体として成田中学をはじめとして34団体、奉仕員数延べ1万7,936人、土工5,347人の合計2万3,283人、経費は、3万8,485円50銭、約半分が寄付であった」と述べています。また、「将来あの道路建設には、われわれも参加したという思い出を、町民だれもがもてるように」と、幼稚園児まで奉仕作業に参加させたのでした。こうして完成した「興亜道路」は、現在その一部が市役所通りであったり、国道51号線となっており、その姿は大きく変わりましたが、市民の生活に欠かせない重要な道路となっています。

昭和35年ころの京成成田駅周辺。国道51号線や国鉄（現JR）成田駅前から51号を結ぶ市役所通りはまだない
①興亜道路②当時の成田市役所③栗山駐車場（現在の栗山公園）④電車道（成田山と宗吾霊堂を結ぶ成宗電車が走っていた）⑤京成成田駅⑥開運橋

編集後記

本号の表紙はデンマーク王国ネストベズ市長です。大きな体からは想像できないような市長の気さくなしぐさに思わずカメラを向けてしまいました。次に訪問した保育園は運悪くお昼寝どき。ところが、子どもたちが一斉に寝ている姿に市長一行の目はなぜかくぎ付けに。同国には無い子育て習慣に相当驚いたようで、担当者に次々に質問をしていました。もしかすると近い将来ネストベズでも「お昼寝」が見られるかも知れません。

広報なりたは再生紙を使用しています。